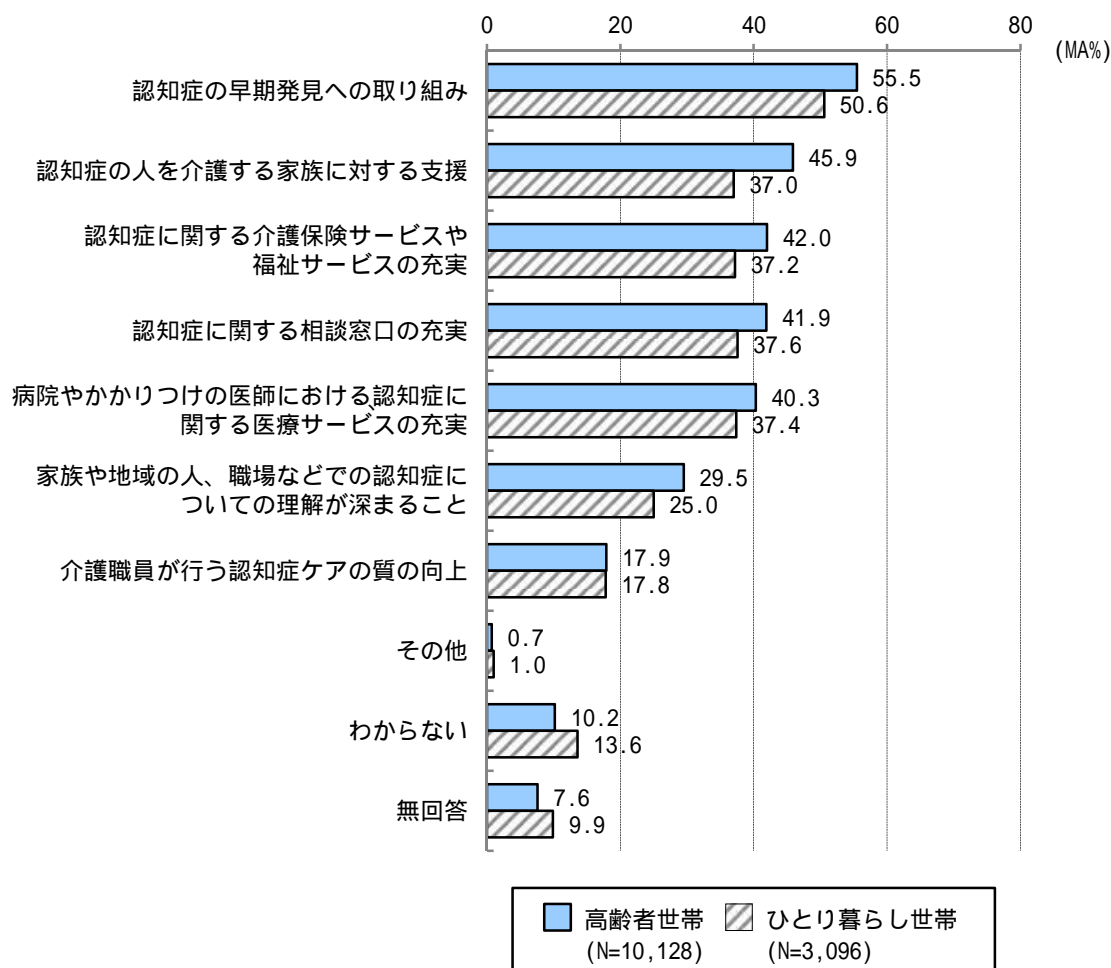


問35 認知症の人の支援に必要と考えること

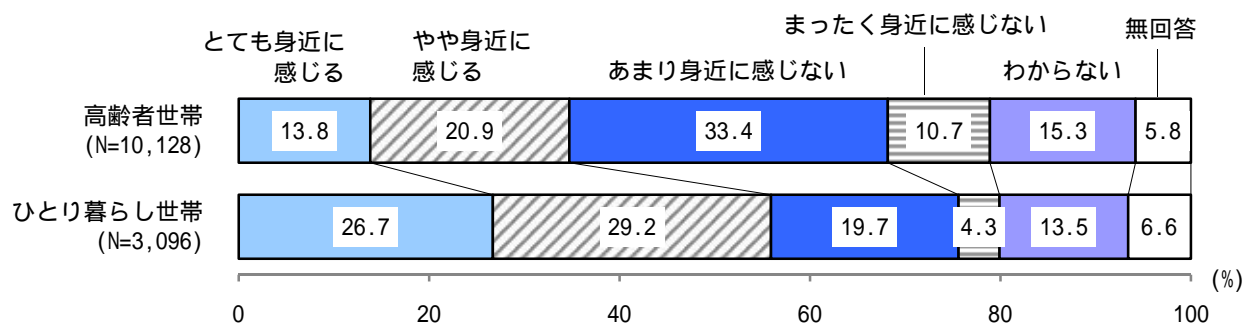
【図35 認知症の人の支援に必要と考えること】



ひとり暮らし世帯の回答者の「認知症の人の支援に必要と考えること」については、「認知症の早期発見への取り組み」が50.6%で最も多く、次いで「認知症に関する相談窓口の充実」が37.6%、「病院やかかりつけの医師における認知症に関する医療サービスの充実」が37.4%となっているが、いずれの項目も高齢者世帯全体より低く、特に「認知症の人を介護する家族に対する支援」では高齢者世帯全体より8.9ポイント低くなっている。(図35)

問36 孤立死について考えること

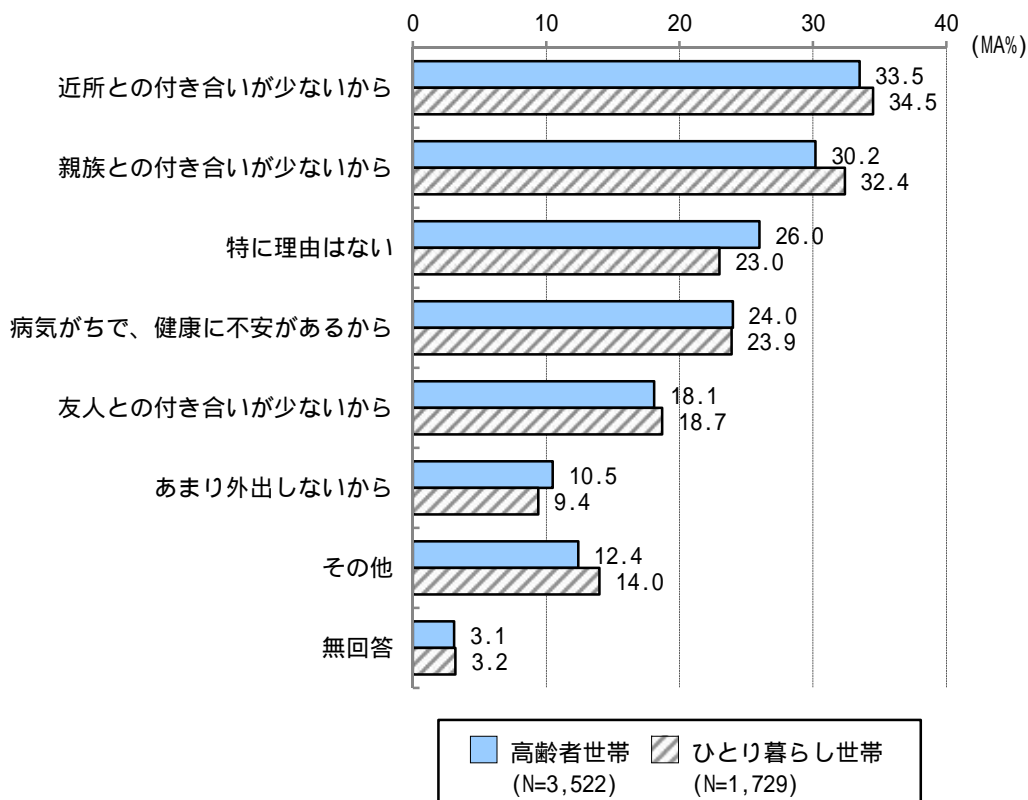
【図36 孤立死について考えること】



ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死について考えること」は、「とても身近に感じる」「やや身近に感じる」をあわせた割合は、高齢者世帯全体が34.7%であるのに対して、ひとり暮らし世帯は55.9%と大きな差がみられる。(図36)

問36-1 孤立死を身近に感じる理由

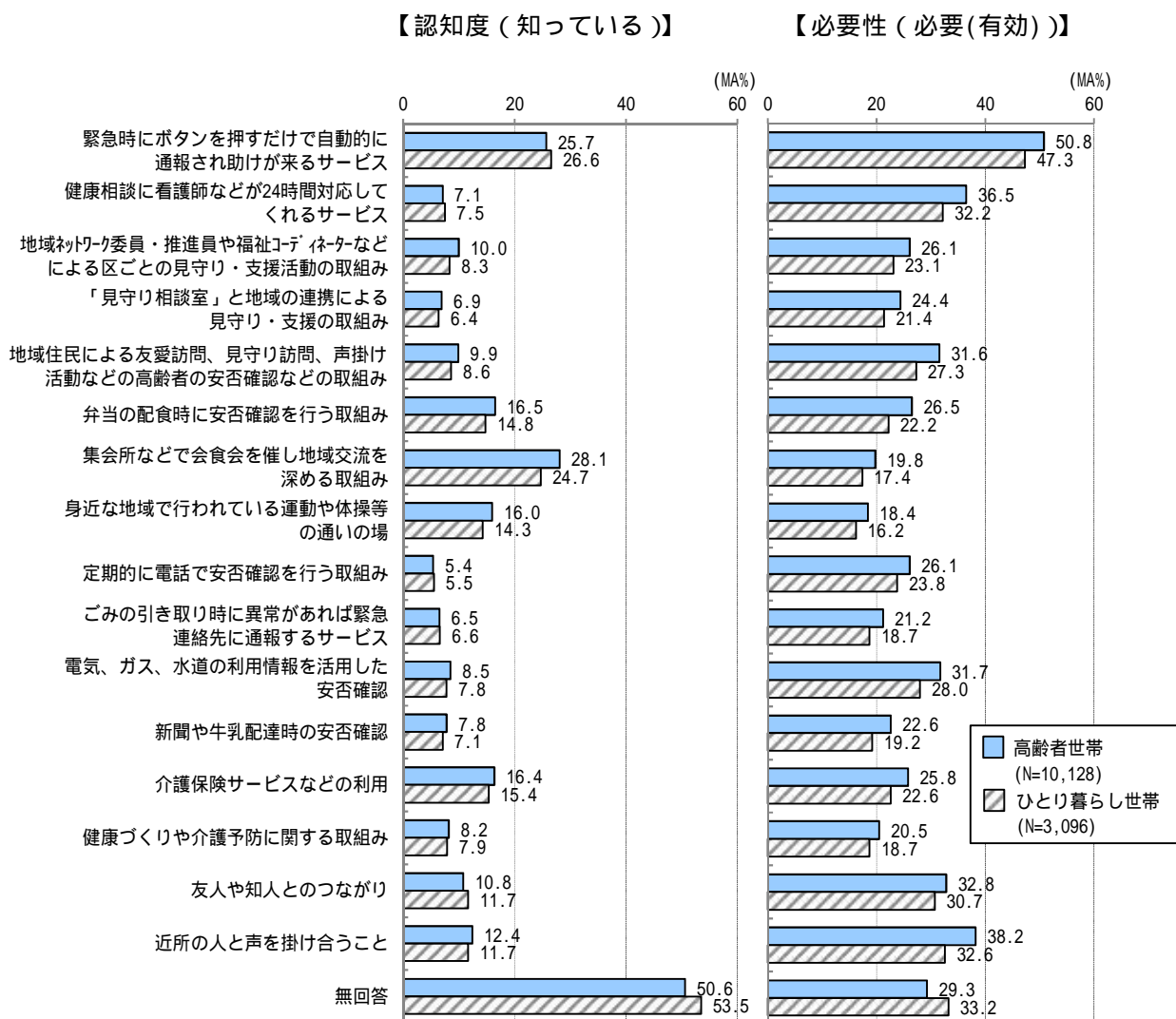
【図36-1 孤立死を身近に感じる理由】



ひとり暮らし世帯の回答者の「孤立死を身近に感じる理由」については、「近所との付き合いが少ないから」が34.5%で最も多く、次いで「親族との付き合いが少ないから」が32.4%であり、両者とも高齢者世帯全体より高い割合となっている。(図36-1)

問37 地域での見守り活動の認知度と必要性

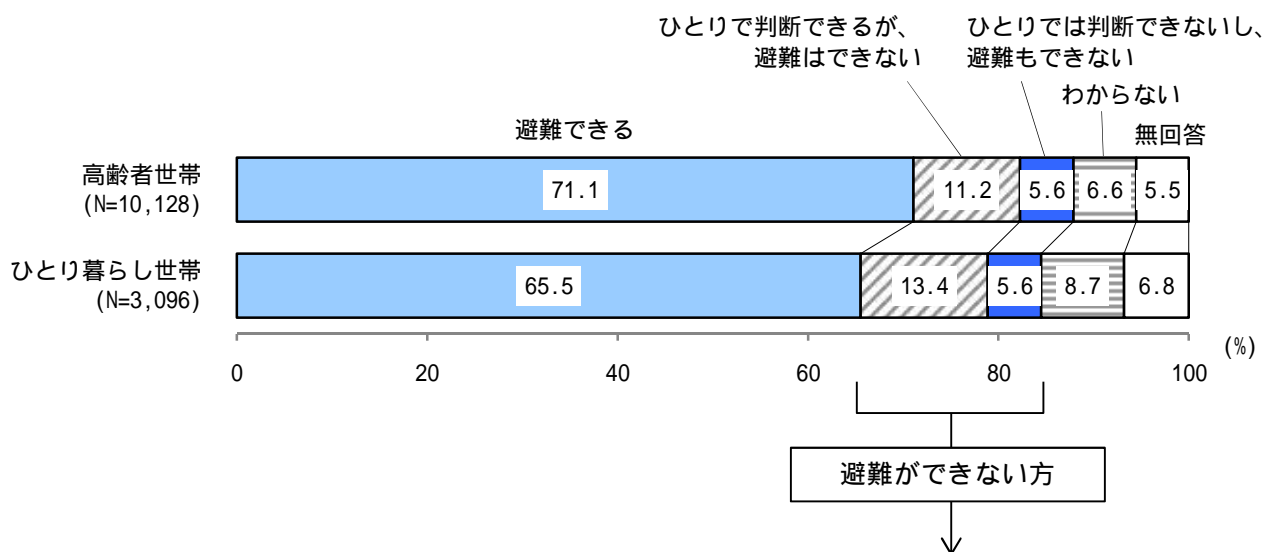
【図37 地域での見守り活動の認知度と必要性】



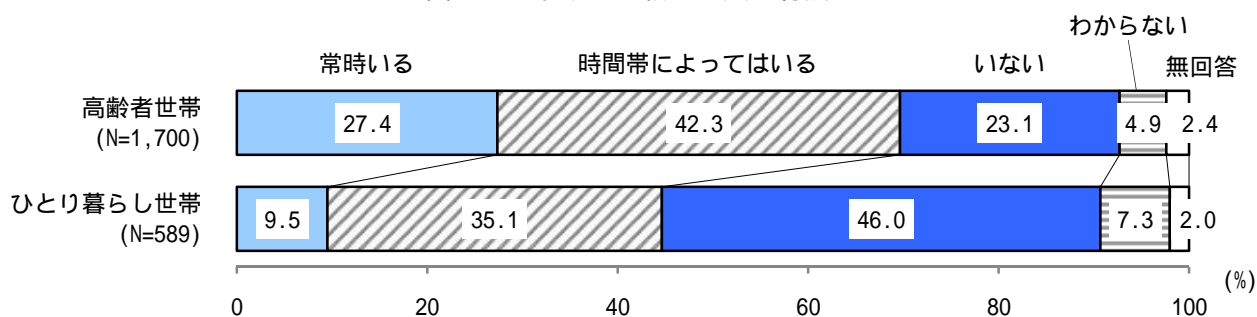
ひとり暮らし世帯の回答者の「地域での見守り活動の認知度と必要性」については、認知度・必要性とも高齢者世帯全体と同様の傾向となっており、概ね高齢者世帯全体より割合が低くなっている。(図37)

問38、問38-1 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か・手助けを頼める人の有無

【図38 災害時・緊急時にひとりで避難が可能か】



【図38-1 手助けを頼める人の有無】

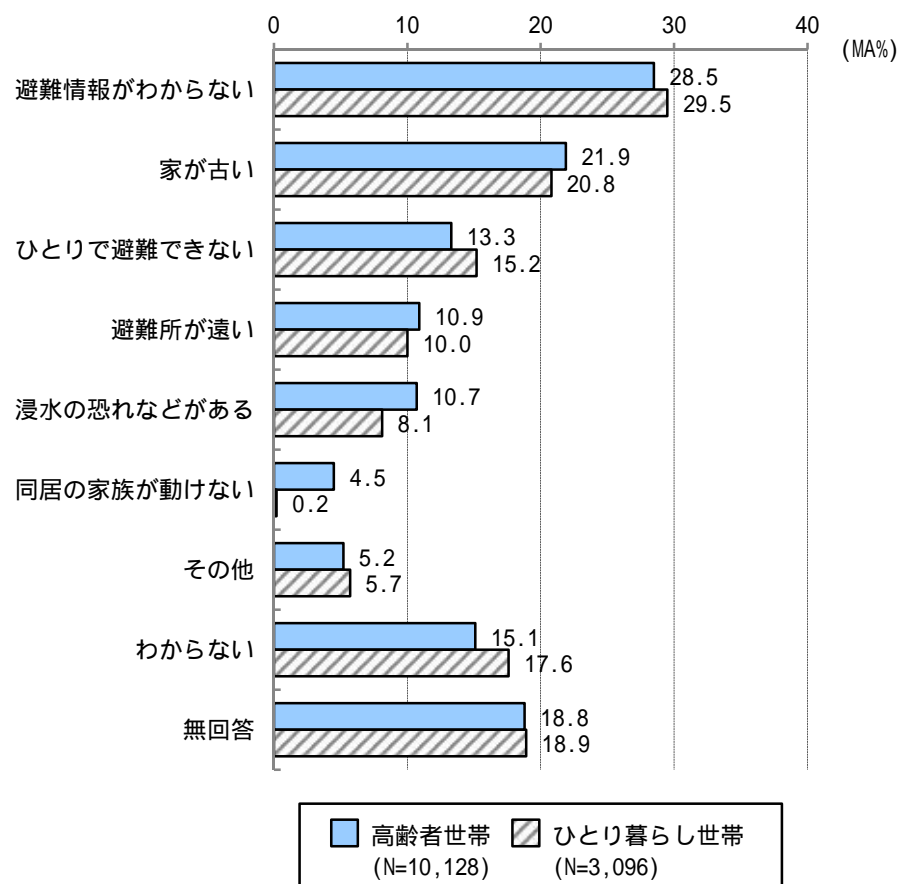


ひとり暮らし世帯の回答者の「災害時・緊急時にひとりで避難が可能か」については、「ひとりで判断できるが、避難はできない」と「ひとりで判断できないし、避難もできない」をあわせた『避難できない』方の割合は、高齢者世帯全体よりも高くなっている。(図38)

また、『避難できない』と回答した人に、手助けを頼める人の有無をたずねると、ひとり暮らし世帯では、「いない」との回答が46.0%であり、高齢者世帯全体の約2倍となっている。(図38-1)

問39 災害時の心配事

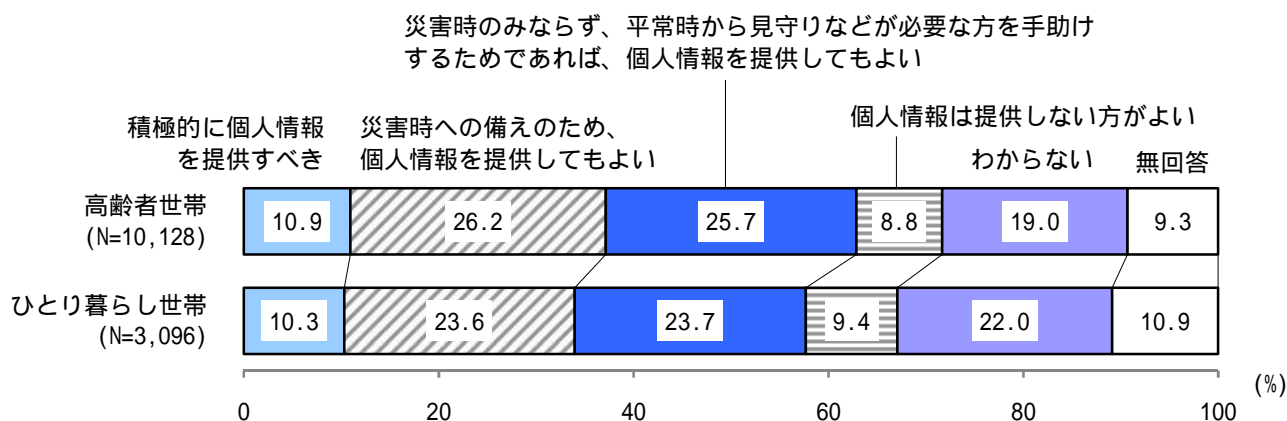
【図39 災害時の心配事】



ひとり暮らし世帯の回答者の「災害時の心配事」については、「避難情報がわからない」が29.5%で最も多く、次いで「家が古い」が20.8%となっており、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図39)

問40 個人情報の地域団体等への提供についての考え

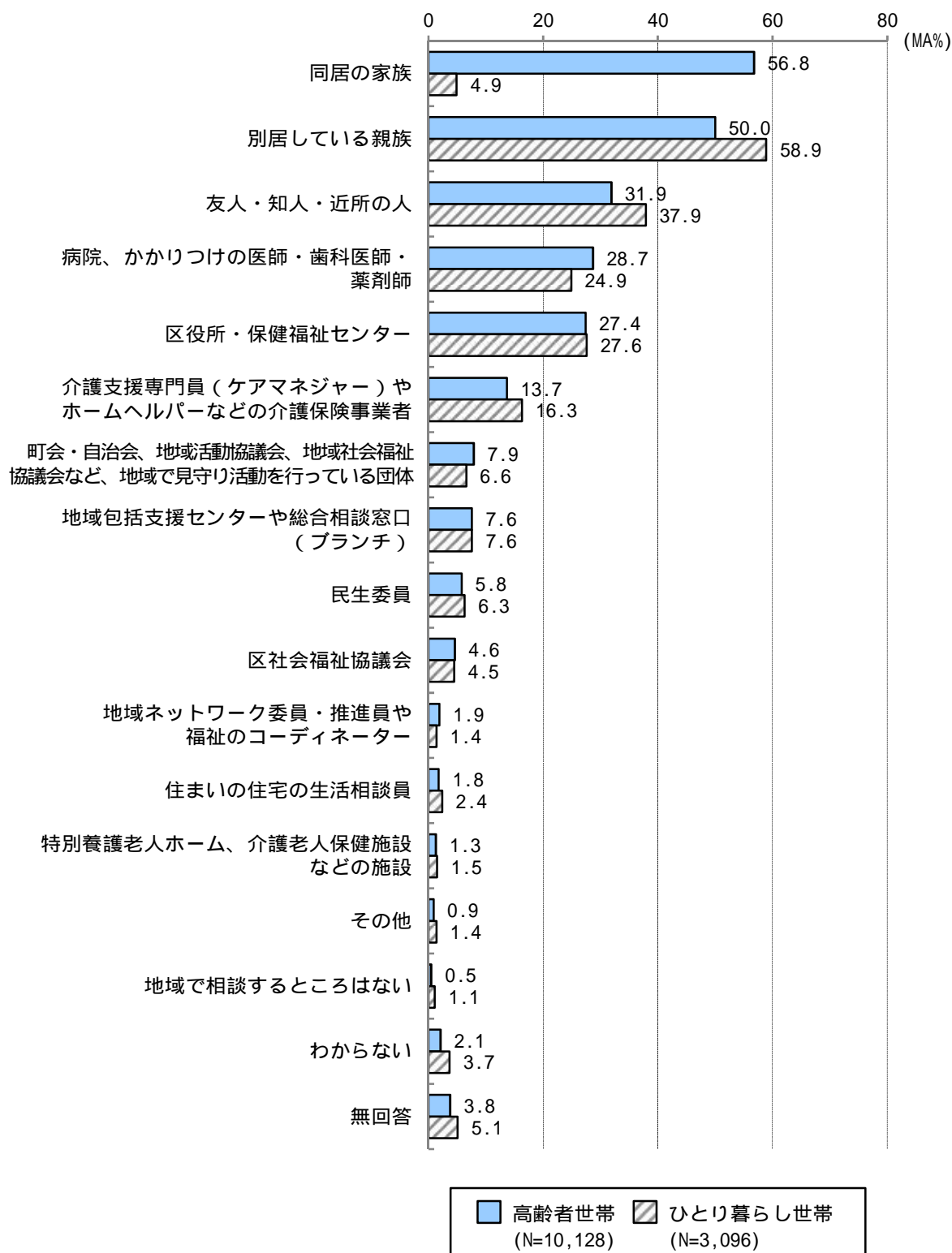
【図40 個人情報の地域団体等への提供についての考え】



ひとり暮らし世帯の回答者の「個人情報の地域団体等への提供についての考え」については、「災害時のみならず、平常時から見守りなどが必要な方を手助けするためであれば、個人情報を提供してもよい」が23.7%で最も多く、次いで「災害時への備えのため、個人情報を提供してもよい」が23.6%となっており、『個人情報を提供してもよい』との回答は高齢者世帯全体より5.2ポイント低くなっている。(図40)

問41 困ったときの相談相手

【図41 困ったときの相談相手】



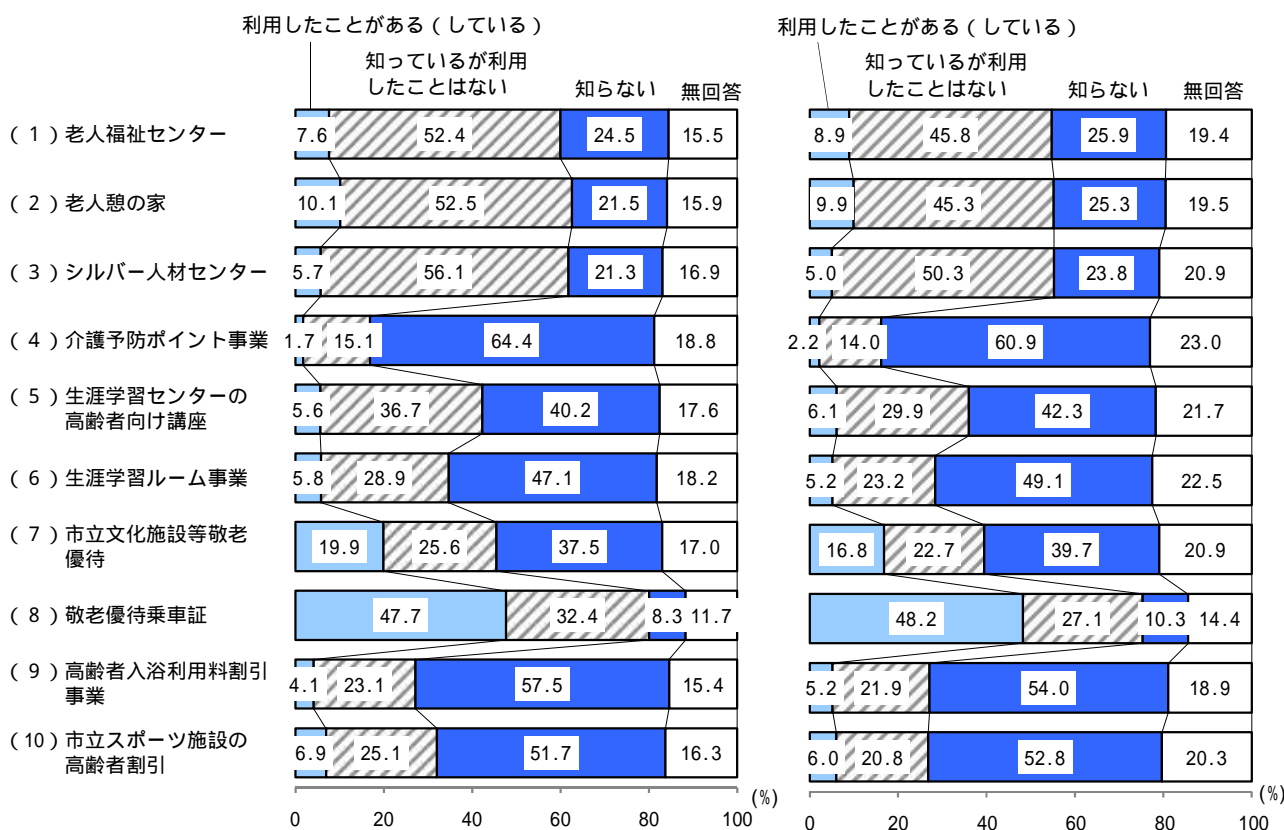
ひとり暮らし世帯の回答者の「困ったときの相談相手」については、「別居している親族」が58.9%で最も多く、次いで「友人・知人・近所の人」が37.9%となっており、両者は高齢者世帯全体より高くなっている。（図41）

問42 高齢者向け施設や事業の利用状況・意向

【図42 高齢者向け施設や事業の利用状況】

〔高齢者世帯(N=10,128)〕

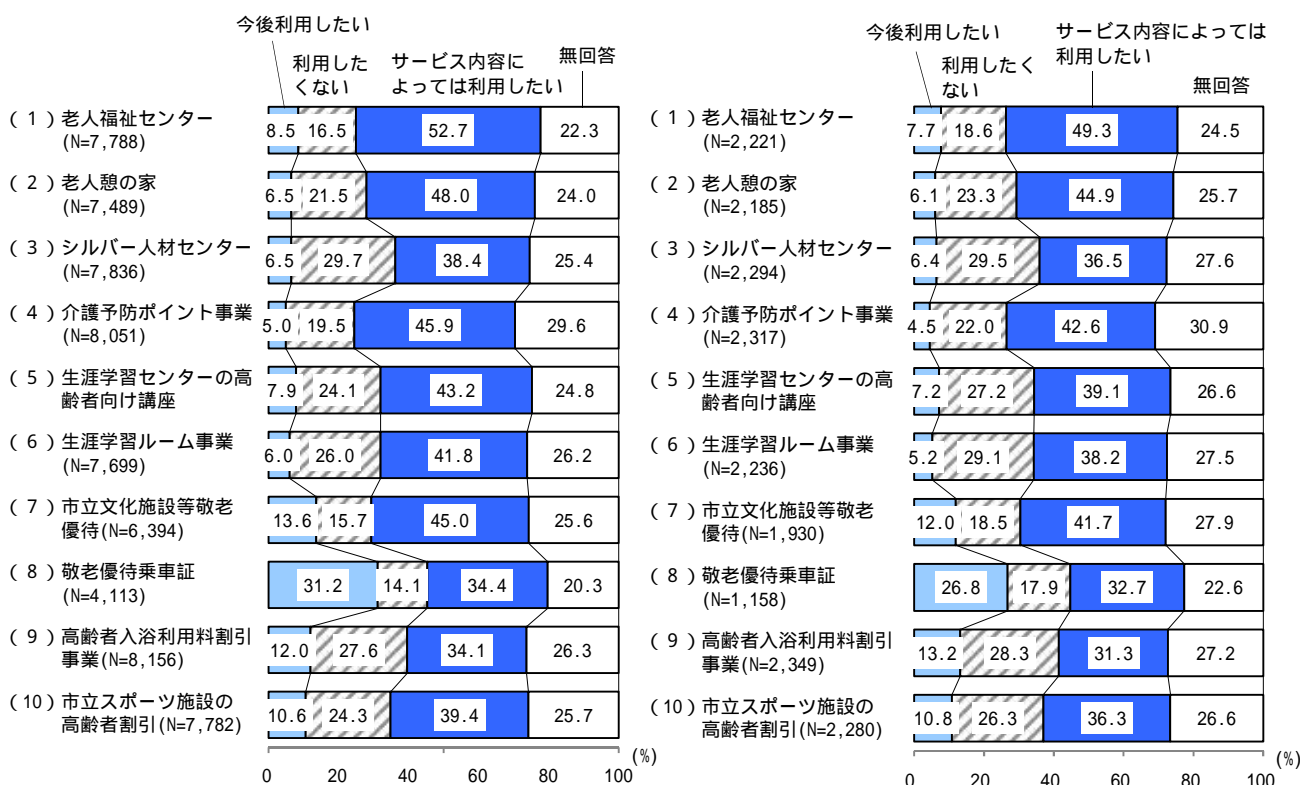
〔ひとり暮らし世帯(N=3,096)〕



【図42 高齢者向け施設や事業の利用意向】

〔高齢者世帯〕

〔ひとり暮らし世帯〕

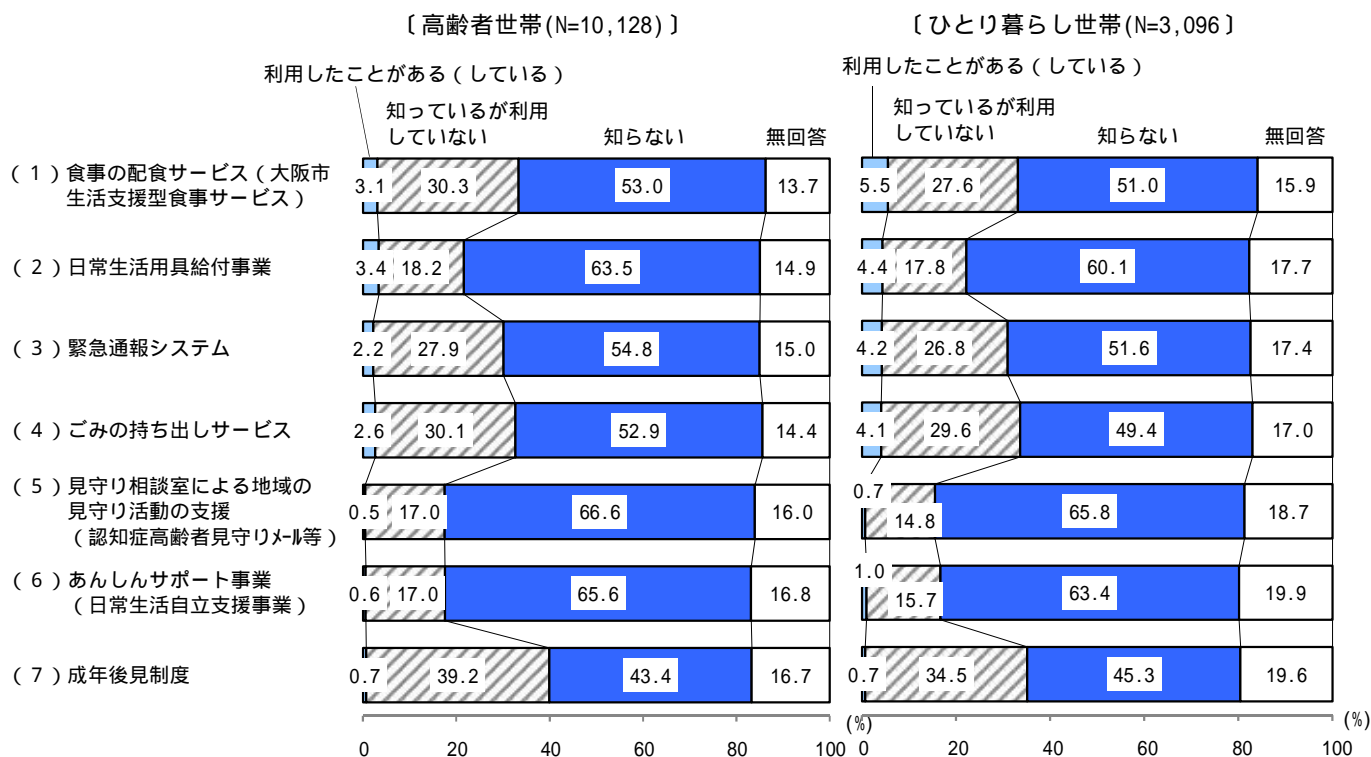


ひとり暮らし世帯の回答者の「高齢者向け施設や事業の利用状況」については、“(8)敬老優待乗車証”について「利用したことがある(している)」(48.2%)の回答割合が他と比べ大幅に高くなっている。一方、「知らない」の回答は“(4)介護予防ポイント事業”が60.9%で最も高くなっているが、高齢者世帯全体と比べると低くなっている。(図42)

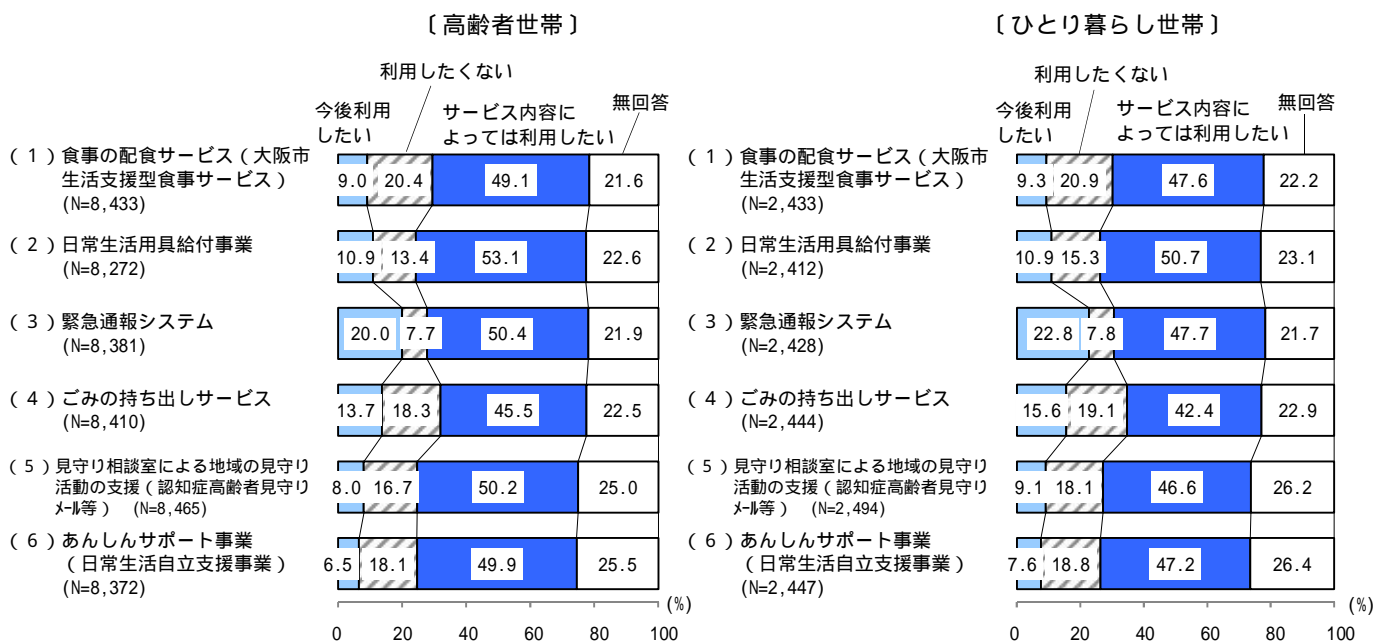
ひとり暮らし世帯の回答者の「高齢者向け施設や事業の利用意向」については、“(8)敬老優待乗車証”の「今後利用したい」(26.8%)の回答割合が他と比べて大幅に高いが、高齢者世帯全体と比べると低くなっている。(図42)

問43 高齢者向け福祉サービス、制度の利用状況・意向

【図43 高齢者向け福祉サービス、制度の利用状況】



【図43 高齢者向け福祉サービス、制度の利用(参加)意向】

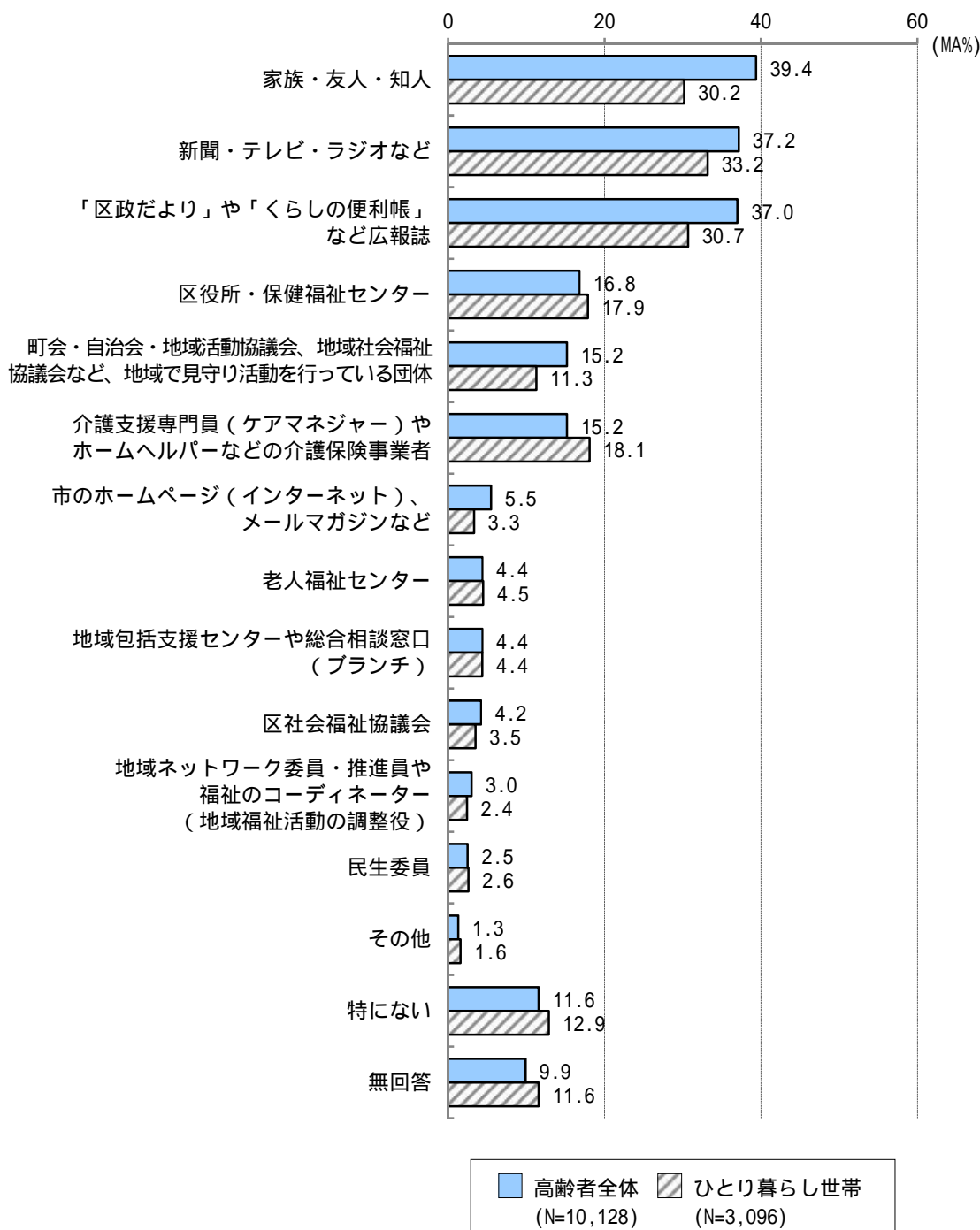


ひとり暮らし世帯の回答者の「高齢者向け福祉サービス、制度の利用状況」については、いずれも「知らない」の回答割合が最も多いが、「知っているが利用していない」は“(7)成年後見制度”が34.5%で最も高くなっている。また、「利用したことがある(している)」が概ねいずれの項目も高齢者世帯全体よりも高い割合となっている。(図43)

ひとり暮らし世帯の回答者の「高齢者向け福祉サービス、制度の利用意向」については、「今後利用したい」の回答割合は“(3)緊急通報システム”が22.8%で最も高く、高齢者世帯全体よりも高く、概ねいずれの項目も高齢者世帯全体より高い割合となっている。(図43)

問44 高齢者向けサービスの情報の入手方法

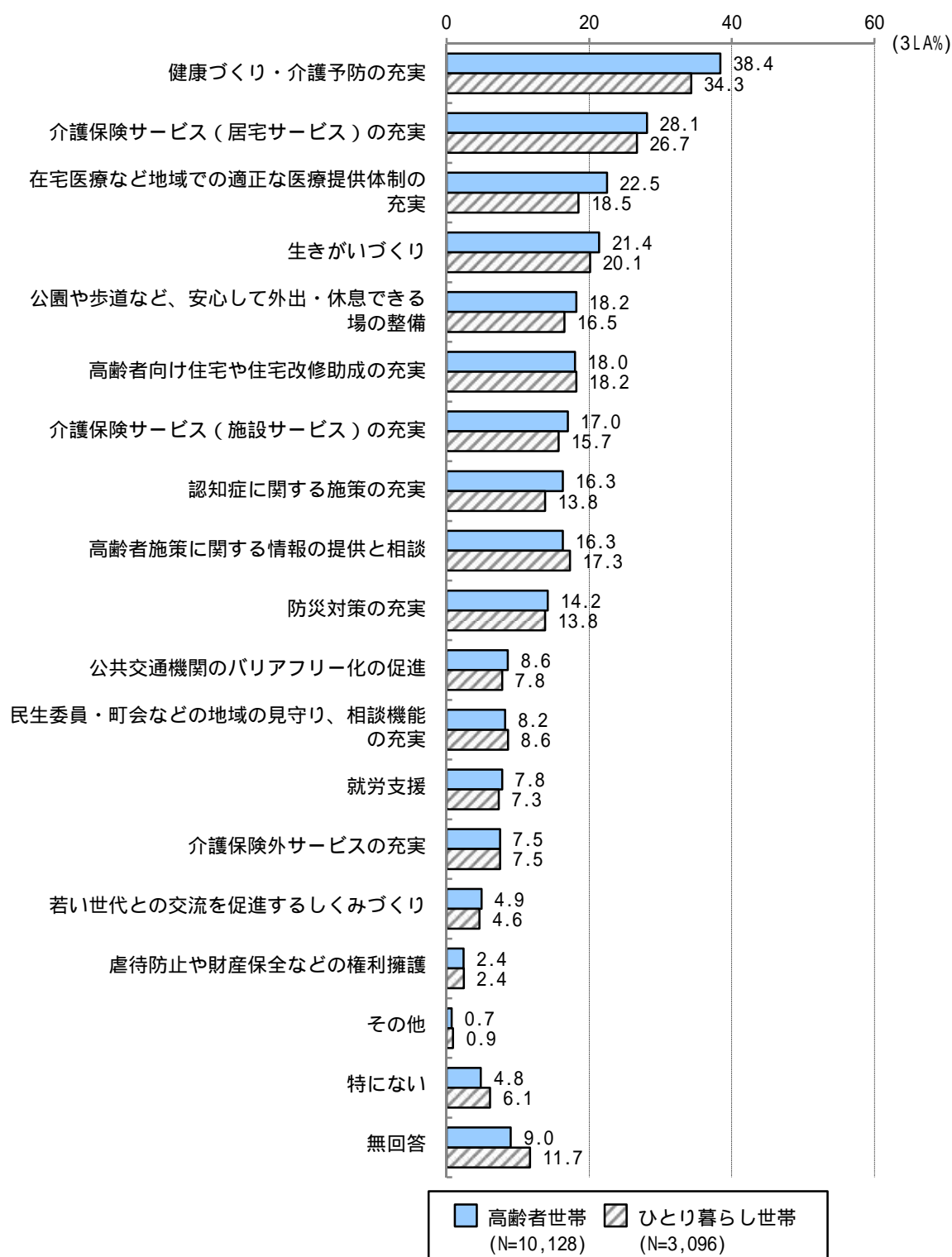
【図44 高齢者向けサービスの情報の入手方法】



ひとり暮らし世帯の回答者の「高齢者向けサービスの情報の入手方法」については、「新聞・テレビ・ラジオなど」が33.2%で最も多く、次いで「区政だより」や「くらしの便利帳」など広報誌が30.7%、「家族・友人・知人」が30.2%となっている。「区役所・保健福祉センター」と「介護支援専門員（ケアマネジャー）やホームヘルパーなどの介護保険事業者」の回答割合は高齢者世帯全体より高いが、それ以外の項目では高齢者世帯全体のほうが高くなっている。（図44）

問45 重点を置くべきと考える高齢者施策

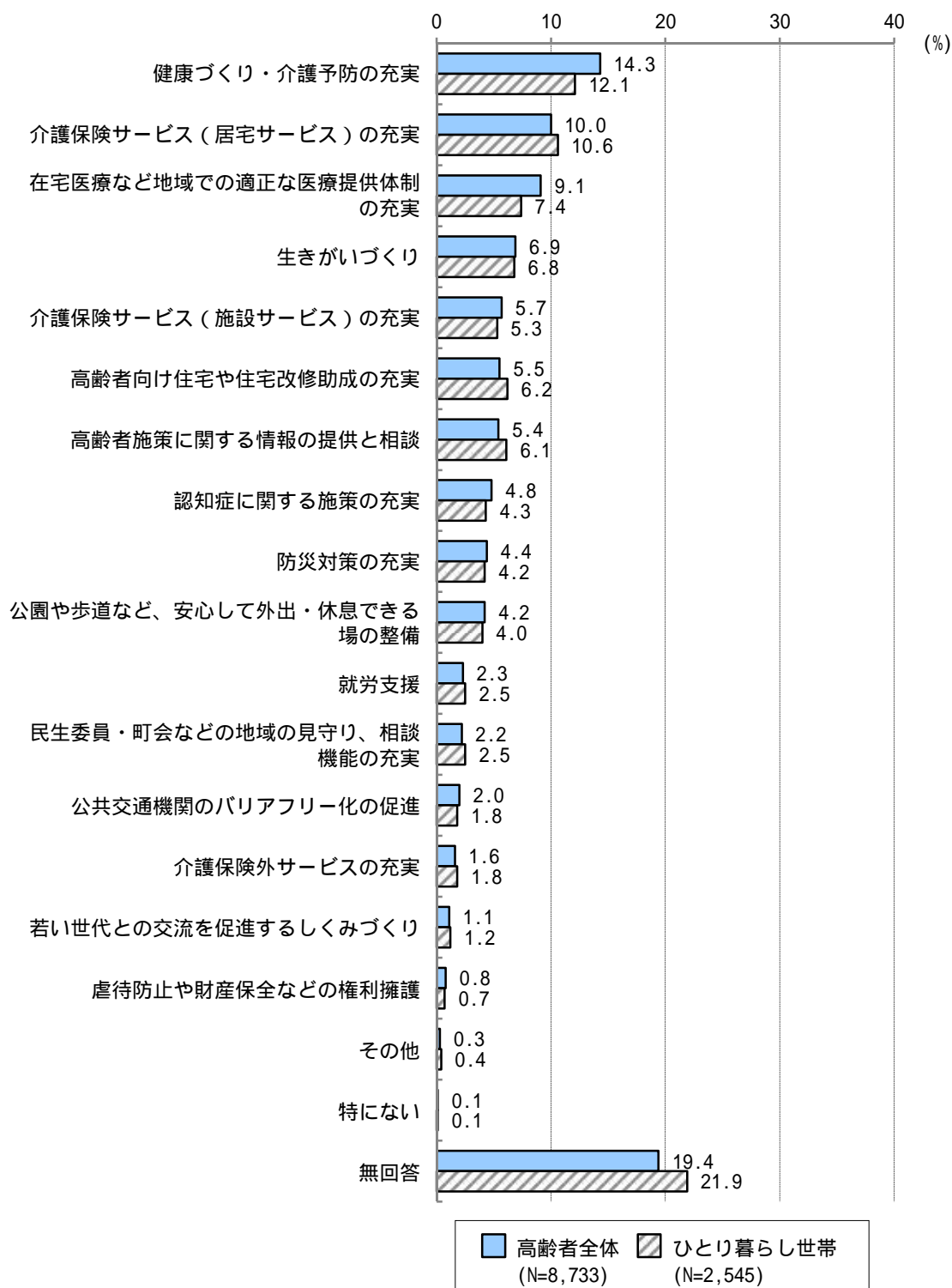
【図45 重点を置くべきと考える高齢者施策】



ひとり暮らし世帯の回答者の「重点を置くべきと考える高齢者施策」については、高齢者世帯全体と概ね同様の傾向であるが、「高齢者向け住宅や住宅改修助成の充実」、「高齢者施策に関する情報の提供と相談」、「民生委員・町会などの地域の見守り、相談機能の充実」、「特にない」において、高齢者世帯全体よりもやや高い回答割合となっている。(図45)

問45 特に重点を置くべきと考える高齢者施策

【図45-1 特に重点を置くべきと考える高齢者施策】



ひとり暮らし世帯の回答者の「特に重点を置くべきと考える高齢者施策」については、「健康づくり・介護予防の充実」が12.1%で最も多く、次いで「介護保険サービス(居宅サービス)の充実」が10.6%となっており、高齢者世帯全体と同様の傾向となっている。(図45-1)